

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第20週
(5月17日～5月23日)

- * 2010年5月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「子宮頸がん予防ワクチン」も掲載
しています。

平成22(2010)年5月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年20週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		17週	18週	19週	20週	年累計	20週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	73	36	66	63	1447	285	8630
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					1		3
	細菌性赤痢	1		1	4	30	6	66
	腸管出血性大腸菌感染症	3	1		1	46	36	435
	腸チフス		1			2		11
	パラチフス					2		9
四類	E型肝炎				1	6	2	25
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	3	5	2	30	7	209
	エキノコックス症							2
	黄熱							
	オウム病							2
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					3	2	50
	デング熱				1	12	2	46
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	1	13
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア		1			9		23
	野兎病							
ライム病					1		3	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1		2	
レジオネラ症			1	2	13	12	193	
レプトスピラ症					1		1	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		17週	18週	19週	20週	年累計	20週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3		3	5	61	12	291
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)			2	2	19	5	70
	急性脳炎 *2					8	2	91
	クリプトスポリジウム症					1		3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1			6	1	51
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	7	1	50
	後天性免疫不全症候群	5	4	15	9	181	25	522
	ジアルジア症	1			1	7	1	30
	髄膜炎菌性髄膜炎							3
	先天性風しん症候群							
	梅毒	3	1	4	2	59	7	205
	破傷風	1				2		28
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1		1	8	1	36
	風しん	1	1			8	2	37
麻しん	3	1	3	2	29	14	206	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	—
2010/5/26集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、バネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 63件 肺結核37件、その他の結核26件で、推定感染地は国内60件、中国2件、ネパール1件、年齢は10歳代4件、20歳代7件、30歳代11件、40歳代8件、50歳代4件、60歳代7件、70歳代12件、80歳代8件、90歳以上2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 4件 菌種はフレキシネル2件、ソネ2件、推定感染地は国内1件、インド2件、韓国1件、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、経口/接触感染1件、その他(不明)2件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 1件 患者で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2)、年齢は20歳代である。推定感染経路は飲食物(かに)による経口感染であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 推定感染地は国内、感染経路はその他(不明)であった。

A型肝炎 2件 推定感染地は全て国内、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、経口/その他1件であった。

デング熱 1件 血清型は3型で、推定感染地はインドである。

レジオネラ症 2件 どちらも肺炎型で、年齢は60歳代。推定感染地は国内で、水系感染(温泉)が疑われている。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 腸管アメーバ症2件、腸管外アメーバ症3件で、推定感染地は国内3件、ベトナム1件、国内及び国外1件、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、性的接触(異性間)1件、その他(不明)3件であった。

ウイルス性肝炎 2件 どちらもB型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)1件、その他(不明)1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 A群で、壊死軟部組織から菌が分離・同定されている。感染経路はその他(不明)であった。

後天性免疫不全症候群 9件 無症候キャリア6件、AIDS2件、その他1件。無症候キャリアおよびその他の年齢は20歳代2件、30歳代3件、40歳代2件、AIDS患者の年齢は20歳代1件、50歳代1件である。推定感染地は国内8件、不明1件、推定感染経路は全て性的接触(同性間6件、異性間2件、両性間1件)であった。

ジアルジア症 1件 推定感染地は国内で、感染経路はその他(不明)であった。

梅毒 2件 どちらも早期顕症梅毒Ⅱ期、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 耐性遺伝子はVanCで、血液から菌が分離・同定されている。

麻しん 2件 麻しん(検査診断例)1件、麻しん(臨床診断例)1件で、年齢は5歳未満1件、10歳代1件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回1件、2回1件であった。

※第19週該当分として、五類 アメーバ赤痢 1件(腸管外アメーバ症)、後天性免疫不全症候群 1件(AIDS、20歳代)、梅毒 2件(早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候1件)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年20週

定点種別	対象疾患	2010年					報告医療機関数	定点医療機関数
		17週	18週	19週	20週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	5	6	8	14	0.09	149	150
	咽頭結膜熱	35	35	41	39	0.26		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	287	118	247	295	1.98		
	感染性胃腸炎	1,303	709	1,055	1,125	7.55		
	水痘	235	251	302	222	1.49		
	手足口病	63	39	53	103	0.69		
	伝染性紅斑	68	55	55	97	0.65		
	突発性発しん	75	53	97	95	0.64		
	百日咳	5	7	7	18	0.12		
	ヘルパンギーナ	30	15	47	61	0.41		
	流行性耳下腺炎	96	107	163	133	0.89		
	不明発しん症(注1)	6	8	14	16	0.11		
MCLS(川崎病)(注1)	1	2	3	1	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	27	8	15	25	0.09	287	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	3	1	6	0.15	39	39
	流行性角結膜炎	21	13	11	14	0.36		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	0	0	1	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	1	0	1	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	7	5	5	5	0.21		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0.00		

2010/5/26集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・手足口病の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・百日咳の定点当たり報告数は増加した。江戸川区内小中学校における患者集積による影響である。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は微増した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。しかし過去5年平均と比較して高いレベルで推移している。

(定点医療機関からのコメント)

江東区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:カンピロバクターの10歳児1名。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年20週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	2			14	1			3		
～11か月	1	3		90	18	8		37		5
1歳	5	10	6	158	33	36	4	43		16
2歳		6	11	109	46	19	6	9		14
3歳	3	5	28	119	39	8	14	1		11
4歳		5	45	113	24	9	11	1	1	9
5歳		3	58	92	19	7	18	1		3
6歳		3	46	74	17	6	21			
7歳			30	51	8	5	13			
8歳			12	54	6	2	7		1	
9歳		1	15	42	2		1		3	
10～14歳			33	101	7	1	1		6	
15～19歳			1	18	1					
20～29歳	3	3	10	90	1	2	1		7	3
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	14	39	295	1125	222	103	97	95	18	61
先週比	6	-2	48	70	-80	50	42	-2	11	14

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		2				
～11か月	2	2		1		
1歳	4	5			1	1
2歳	5	2	1			
3歳	13	2		1		
4歳	25	1		2	1	1
5歳	16	1		4		
6歳	18			1		
7歳	17	1				
8歳	11					1
9歳	4				1	
10～14歳	14			4	1	
15～19歳				4		1
20～29歳	4			1		2
30～39歳				2		4
40～49歳				4		2
50～59歳					1	1
60～69歳					1	1
70～79歳				1		
80歳以上						
合計	133	16	1	25	6	14
先週比	-30	2	-2	10	5	3

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年20週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		1
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		1
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	2

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年20週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	1	3	3	7	2	2				
中央区			9	13	6	2		3		2
みなの	5	1	9	50	3	6	7	6		3
新宿区		1	8	27	2	2	1	1		1
文京			6	9		1	1			
台東			12	29	1	4	2	5		1
墨田区			5	15	6		4	4		
江東区		2	3	62	9	5	1	5		3
品川区		1	13	39	9	5	1	3		10
目黒区	1		1	7	1	2		2		
大田区	2	18	18	114	8	1	2	7	3	9
世田谷		3	20	65	14	9	2	2	1	1
渋谷区			2	20	4	2	3	3	1	
中野区	1		13	47	2	3	7	1		1
杉並			10	56	4	1	2	1		
池袋			2	12	11	1		1		
北区			3	24	6	5	3	1		
荒川区	1		5	14	3		1			2
板橋区			4	16	3	2		2	3	
練馬区	2		14	27	10	3	1	4		1
足立			23	40	4	4	8	3		
葛飾区			4	13	7	8	15	3		11
江戸川		6	11	53	20	5	7	5	10	5
八王子市	1	3	31	85	7	8	13	9		
西多摩			9	28	7	3	1	1		1
南多摩			4	43	4	1	1	6		1
町田			19	80	19	3	4	8		
多摩立川			8	26	10	1	1	1		
多摩府中			14	45	19	5	5	3		4
多摩小平		1	12	59	21	9	4	5		5
島しょ										
東京都合計	14	39	295	1,125	222	103	97	95	18	61

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年20週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	2					
中央区	2					
みなと	8					
新宿区	1					
文京	4					
台東		1				
墨田区		1				
江東区	5	1		1		3
品川区	7					
目黒区	1					
大田区	8	1		6		
世田谷	5			4		
渋谷区	2					
中野区	4	1			1	
杉並	1			6		
池袋	3					
北区	3					
荒川区		1		1		
板橋区	2	1				
練馬区	3	1				3
足立	4				5	
葛飾区	16					
江戸川	2	3				2
八王子市	3	1				1
西多摩	4					
南多摩	7					
町田	16	3		6		
多摩立川	2					
多摩府中	10	1	1	1		2
多摩小平	6					3
島しょ	2					

東京都合計	133	16	1	25	6	14
-------	-----	----	---	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		1
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		1
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	2
-------	---	---

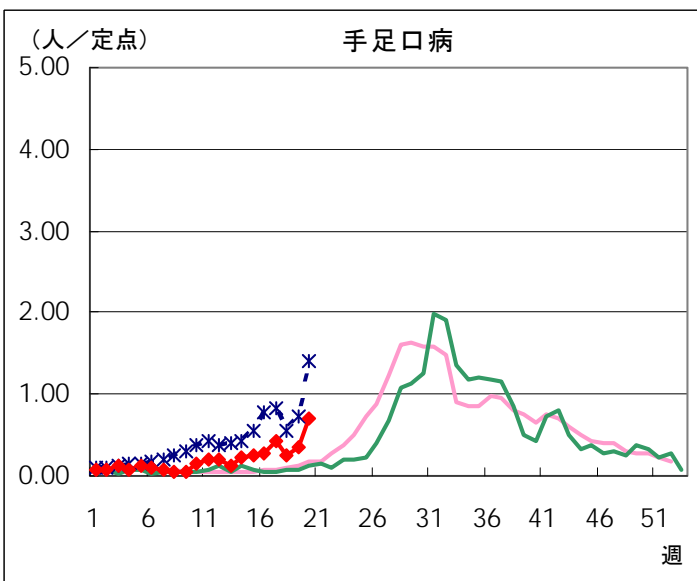
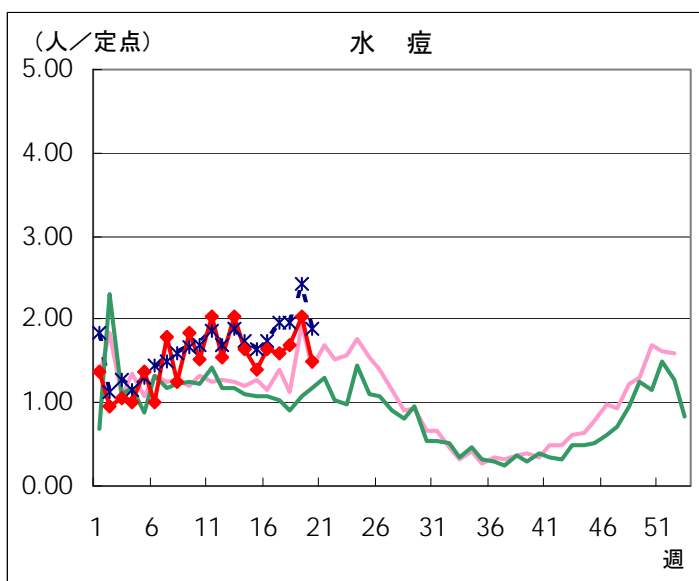
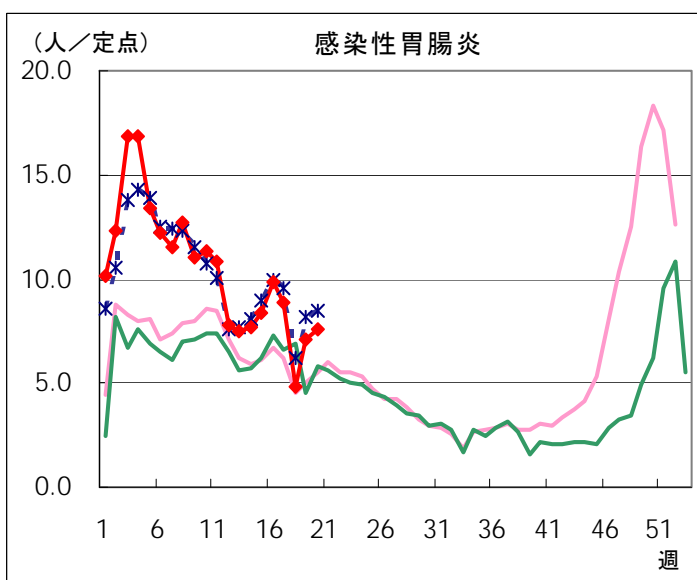
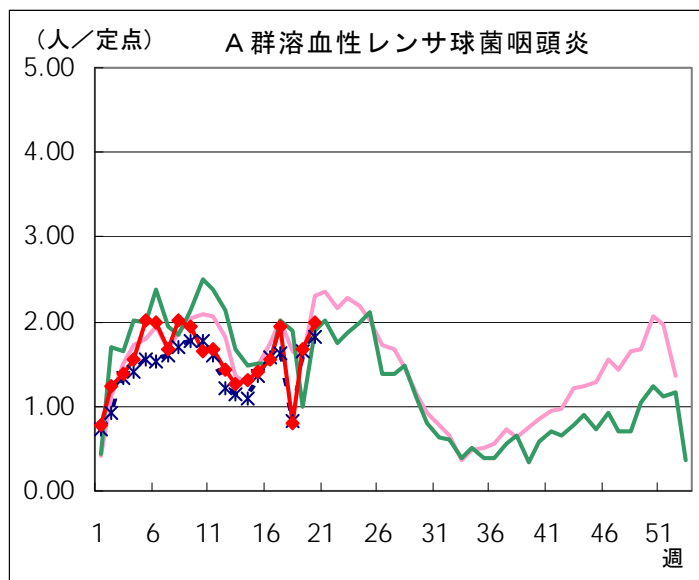
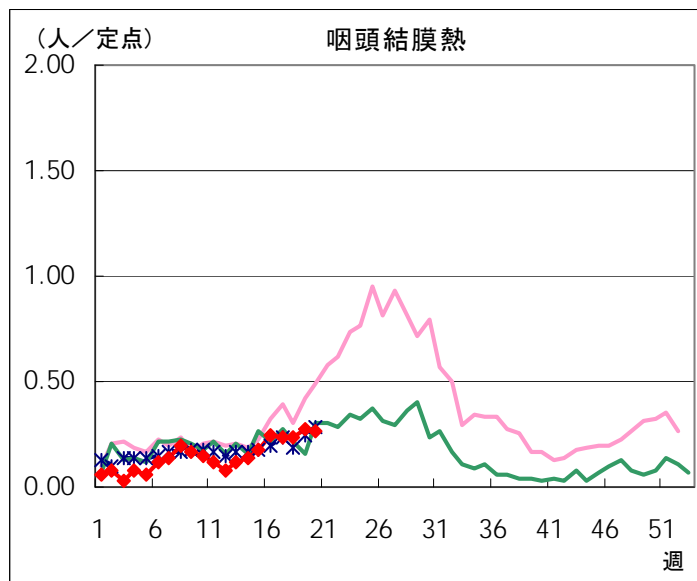
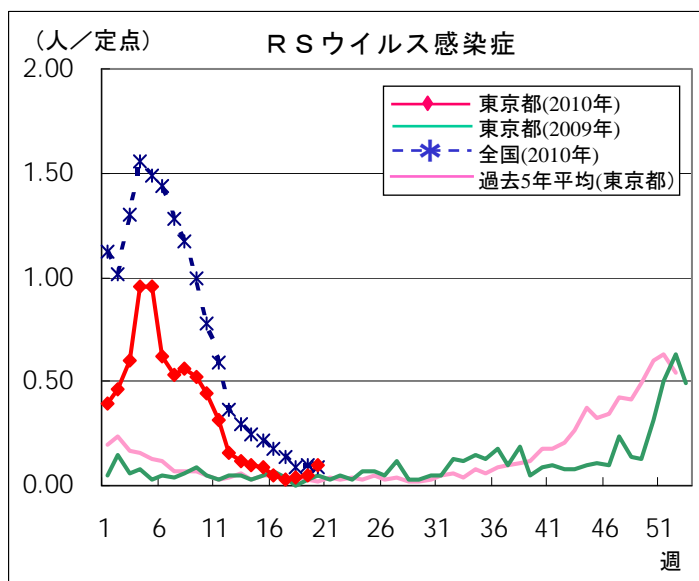
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年20週

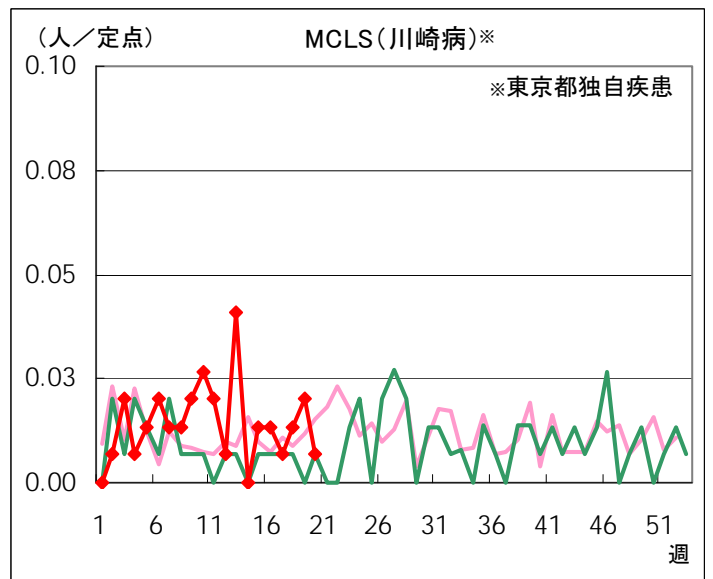
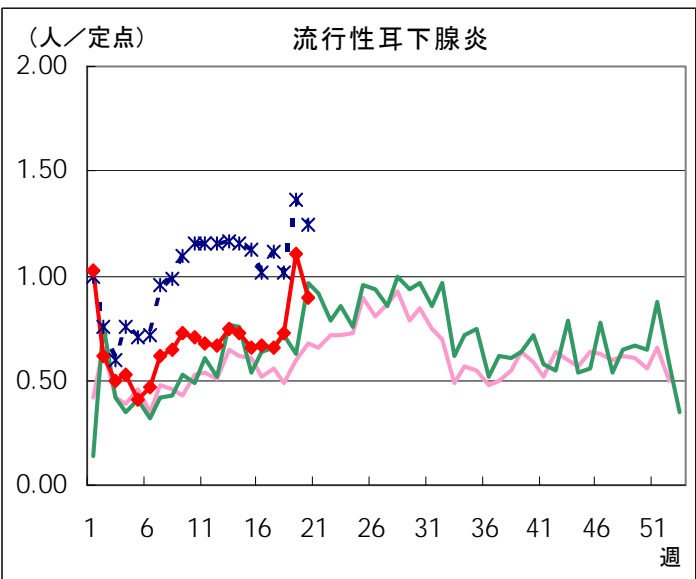
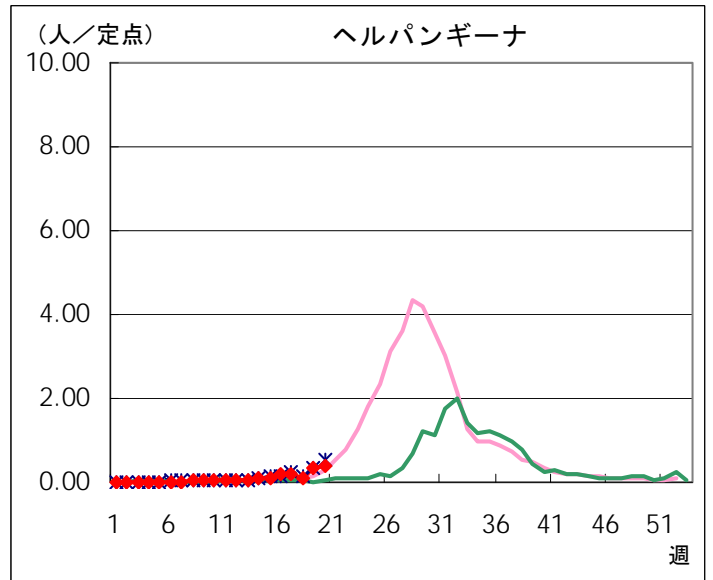
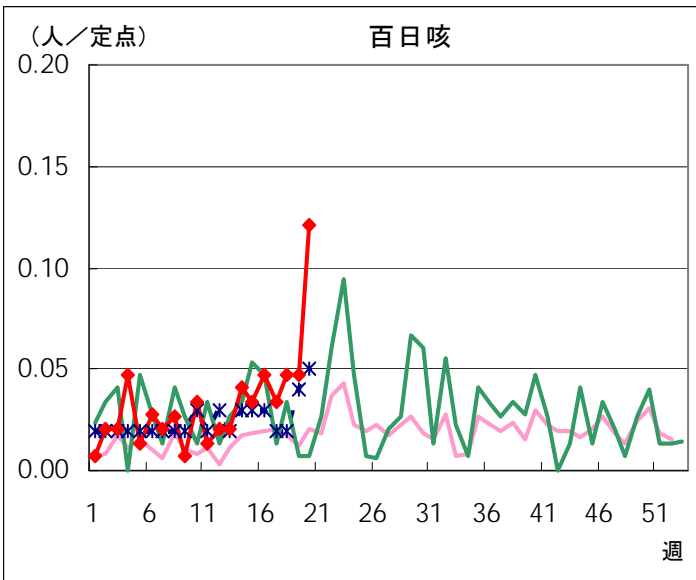
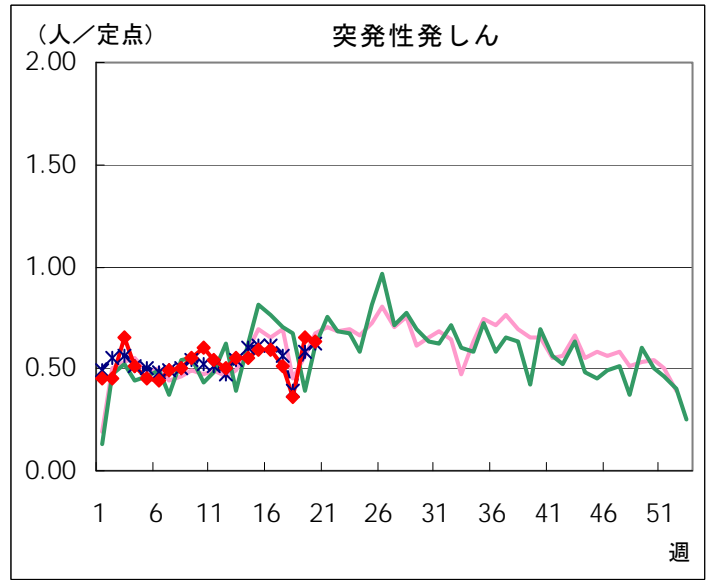
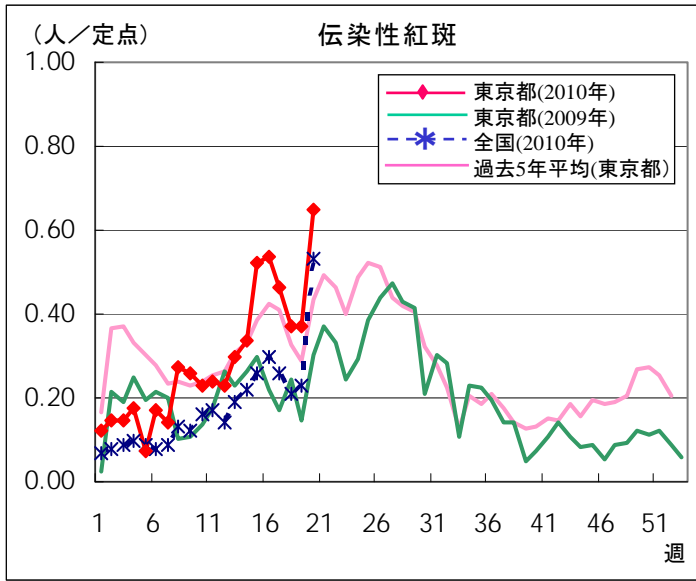
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	0.33	1.00	1.00	2.33	0.67	0.67				
中央区			3.00	4.33	2.00	0.67		1.00		0.67
みなと	0.83	0.17	1.50	8.33	0.50	1.00	1.17	1.00		0.50
新宿区		0.17	1.33	4.50	0.33	0.33	0.17	0.17		0.17
文京			2.00	3.00		0.33	0.33			
台東			4.00	9.67	0.33	1.33	0.67	1.67		0.33
墨田区			1.67	5.00	2.00		1.33	1.33		
江東区		0.50	0.75	15.50	2.25	1.25	0.25	1.25		0.75
品川区		0.17	2.17	6.50	1.50	0.83	0.17	0.50		1.67
目黒区	0.33		0.33	2.33	0.33	0.67		0.67		
大田区	0.22	2.00	2.00	12.67	0.89	0.11	0.22	0.78	0.33	1.00
世田谷		0.38	2.50	8.13	1.75	1.13	0.25	0.25	0.13	0.13
渋谷区			0.50	5.00	1.00	0.50	0.75	0.75	0.25	
中野区	0.17		2.17	7.83	0.33	0.50	1.17	0.17		0.17
杉並			1.67	9.33	0.67	0.17	0.33	0.17		
池袋			0.40	2.40	2.20	0.20		0.20		
北区			0.75	6.00	1.50	1.25	0.75	0.25		
荒川区	0.50		2.50	7.00	1.50		0.50			1.00
板橋区			0.67	2.67	0.50	0.33		0.33	0.50	
練馬区	0.40		2.80	5.40	2.00	0.60	0.20	0.80		0.20
足立			4.60	8.00	0.80	0.80	1.60	0.60		
葛飾区			1.00	3.25	1.75	2.00	3.75	0.75		2.75
江戸川		1.20	2.20	10.60	4.00	1.00	1.40	1.00	2.00	1.00
八王子市	0.25	0.75	7.75	21.25	1.75	2.00	3.25	2.25		
西多摩			1.80	5.60	1.40	0.60	0.20	0.20		0.20
南多摩			1.00	10.75	1.00	0.25	0.25	1.50		0.25
町田			4.75	20.00	4.75	0.75	1.00	2.00		
多摩立川			1.33	4.33	1.67	0.17	0.17	0.17		
多摩府中			1.40	4.50	1.90	0.50	0.50	0.30		0.40
多摩小平		0.17	2.00	9.83	3.50	1.50	0.67	0.83		0.83
島しょ										
東京都	0.09	0.26	1.98	7.55	1.49	0.69	0.65	0.64	0.12	0.41

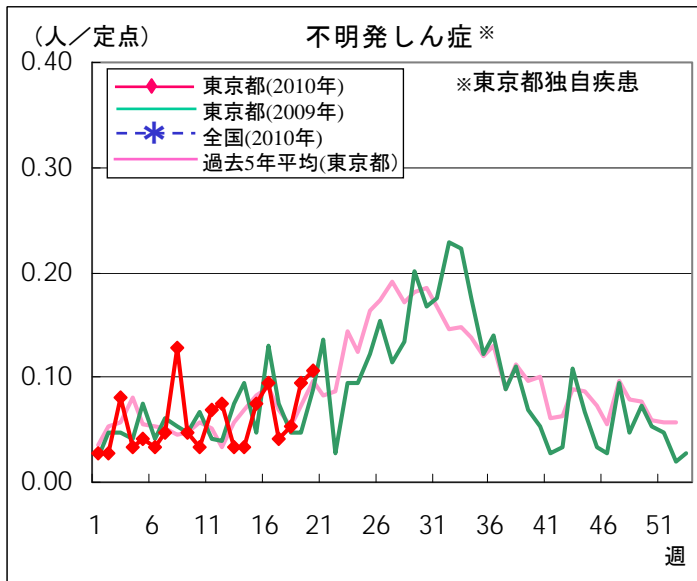
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.67					
中央区	0.67					
みなと	1.33					
新宿区	0.17					
文京	1.33					
台東		0.33				
墨田区		0.33				
江東区	1.25	0.25		0.11		3.00
品川区	1.17					
目黒区	0.33					
大田区	0.89	0.11		0.38		
世田谷	0.63			0.25		
渋谷区	0.50					
中野区	0.67	0.17			1.00	
杉並	0.17			0.50		
池袋	0.60					
北区	0.75					
荒川区		0.50		0.25		
板橋区	0.33	0.17				
練馬区	0.60	0.20				1.50
足立	0.80				2.50	
葛飾区	4.00					
江戸川	0.40	0.60				1.00
八王子市	0.75	0.25				0.50
西多摩	0.80					
南多摩	1.75					
町田	4.00	0.75		0.67		
多摩立川	0.33					
多摩府中	1.00	0.10	0.10	0.05		0.67
多摩小平	1.00					1.50
島しょ	2.00					
東京都	0.89	0.11	0.01	0.09	0.15	0.36

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年20週現在

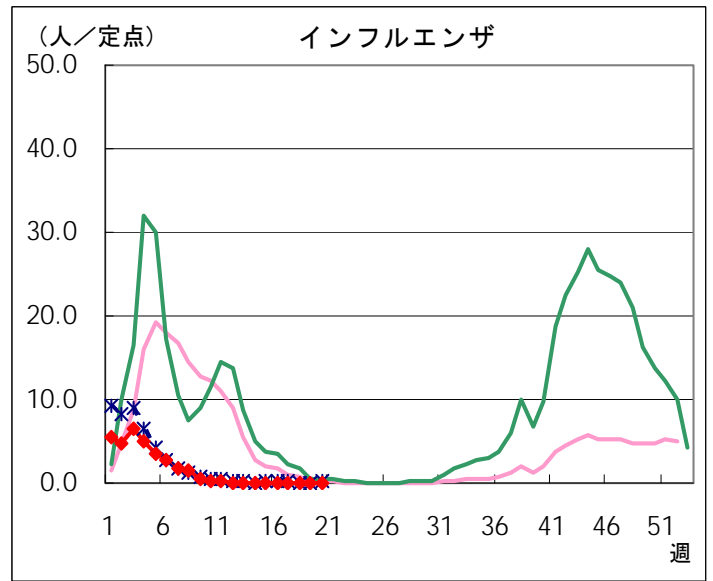
◆ 小児科定点



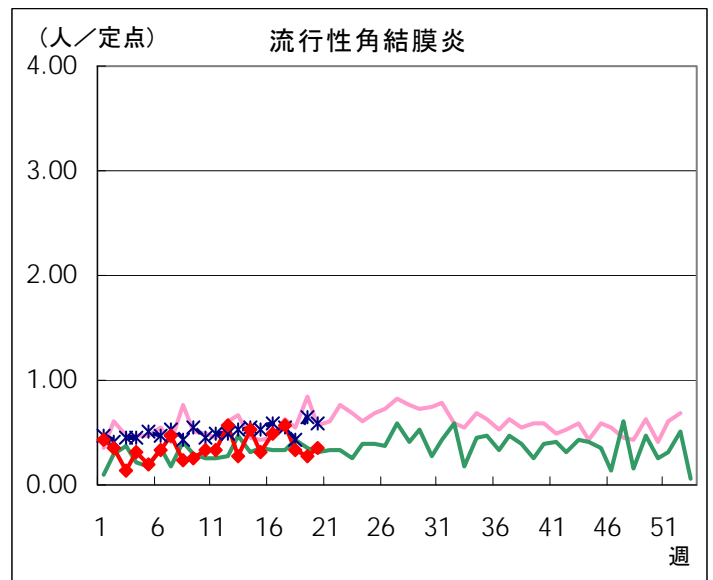
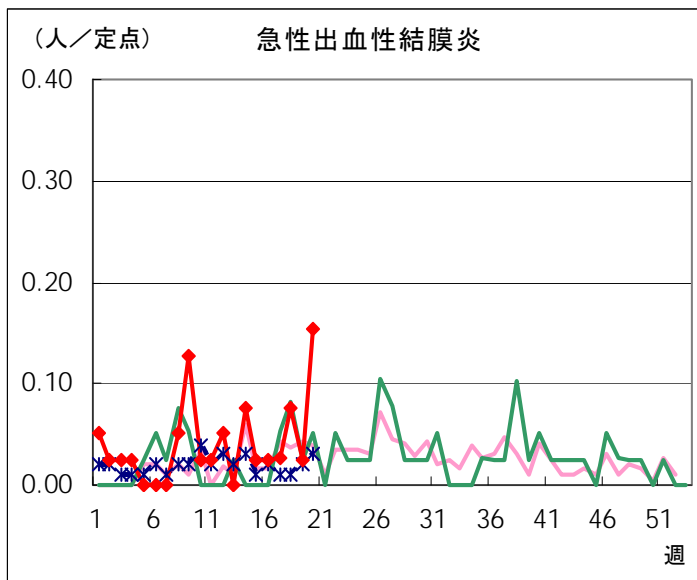




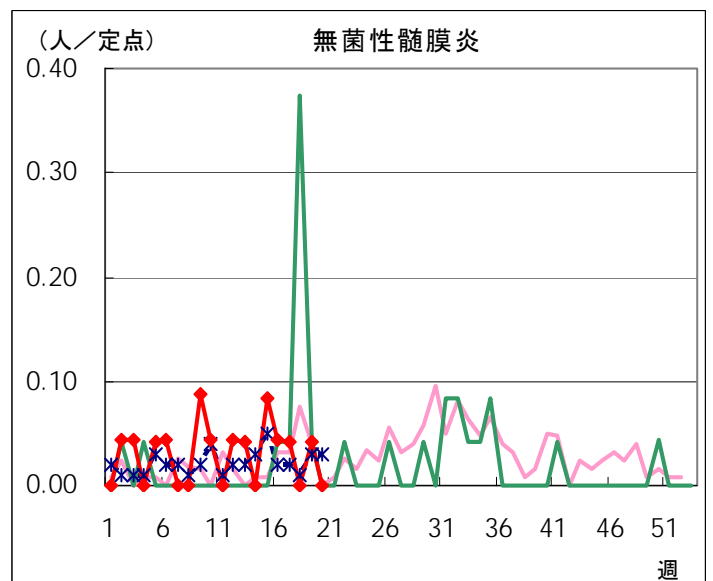
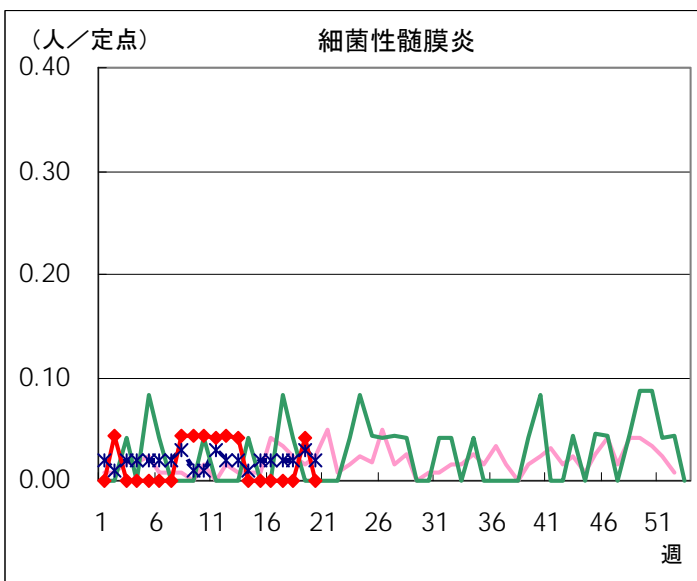
◆ インフルエンザ定点

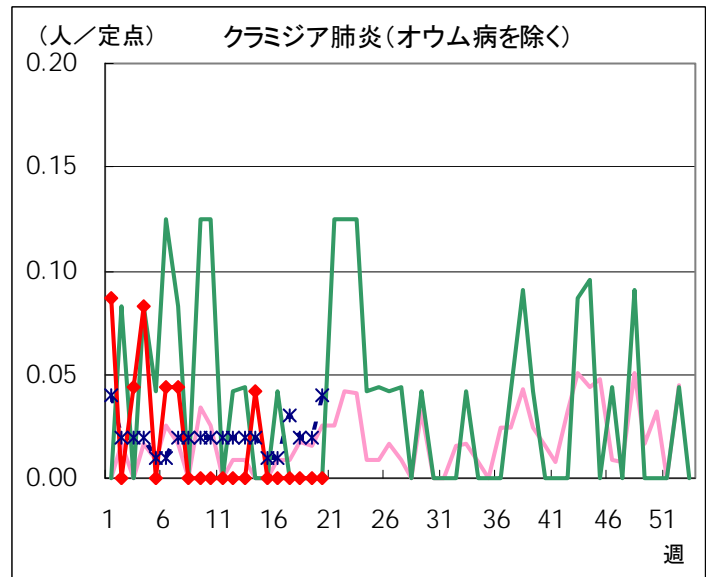
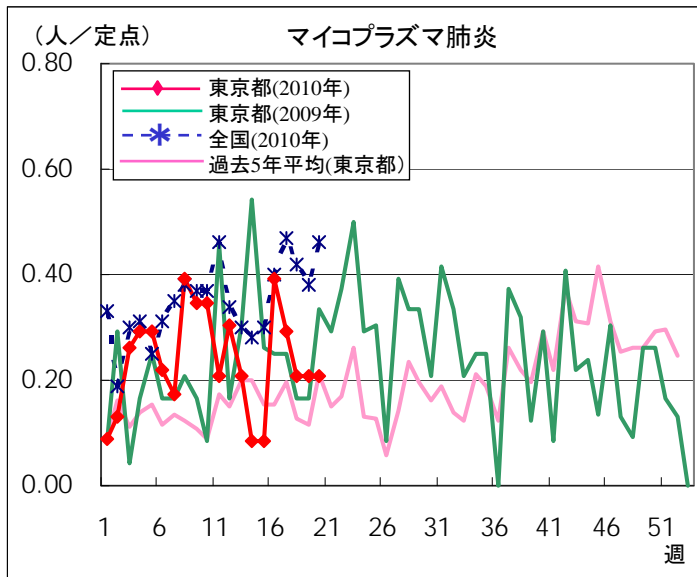


◆ 眼科定点

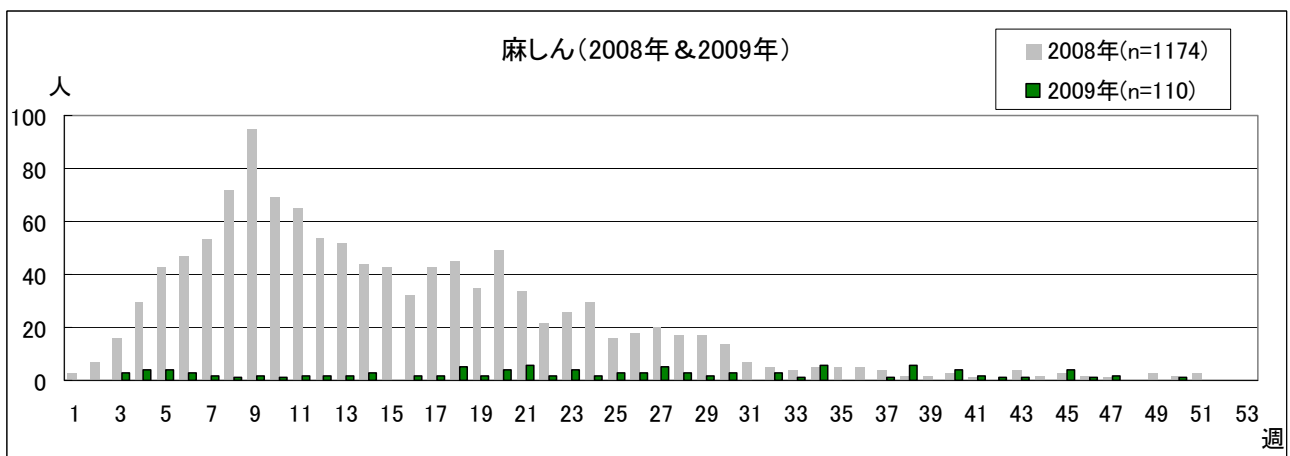
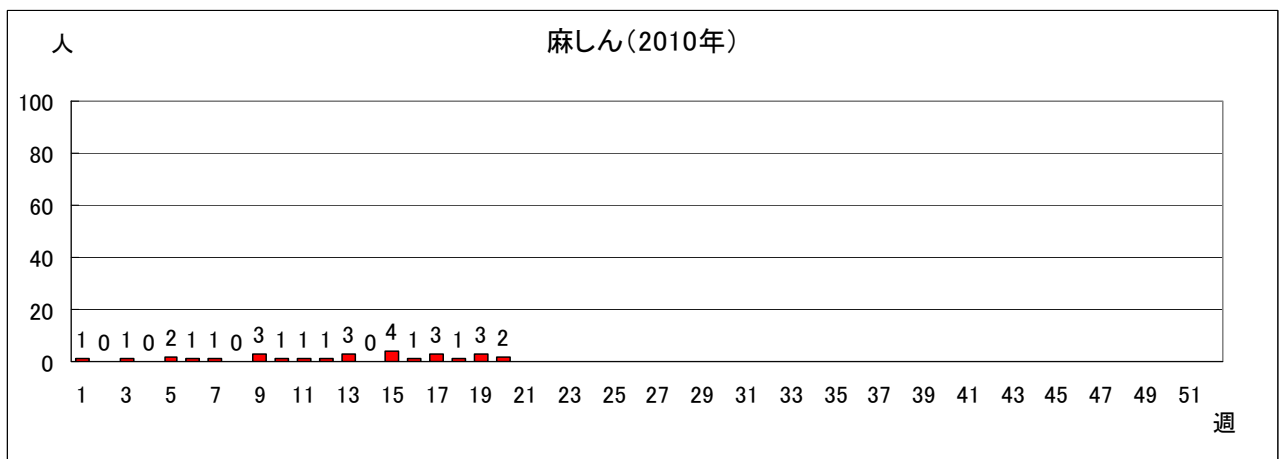


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年20週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/26	溶連菌性咽頭炎	3	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌	遺伝子
5/7	溶連菌感染症	6	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌 (T-28型)/感受性は①参照	菌型試験 分離同定 薬剤感受性
5/7	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
5/7	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
5/7	肺炎	5M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/7	多形紅斑・アデノウイルス感染症	6	糞便	アデノウイルス	
			咽頭拭い液	アデノウイルス、EBウイルス	
5/7	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス	
5/10	不明熱	記載なし	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/10	手足口病	7	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
5/10	手足口病	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
5/10	不明発しん症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
5/10	感染性腸炎	3M	糞便	アデノウイルス	
5/10	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス メタニューモウイルス	
5/10	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
5/11	不明発しん症	5	咽頭拭い液	ライノウイルス	
5/11	不明発しん症	記載なし	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
5/12	流行性耳下腺炎	11	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
5/12	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/13	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
5/13	気管支炎	5M	咽頭拭い液	百日咳菌	
5/13	気管支炎	5M	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	
5/13	不明発しん症	29	咽頭拭い液	ライノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
5/13	不明発しん症	6M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	遺伝子
5/13	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス メタニューモウイルス	
5/13	急性上気道炎・不明発しん症	2	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型・7型	
5/14	肺炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	

薬剤感受性 検査結果	ABPC	CEX	CDTR	CFDN	TC	CP	EM	CAM	CLDM	LCM
	アンピシリン	セファレキシン	セフジトレン	セフジニル	テトラサイクリン	クロラムフェニコール	エリスロマイシン	クラリスロマイシン	クリンダマイシン	リンコマイシン
①	S	S	S	S	S	S	R	R	R	R

「S」は「感受性」、「R」は「耐性」を示す。

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/15 [※]	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	61	菌株 (軟部組織浸出液由来)	G群溶血性レンサ球菌 (emm:stg6792)	同定試験 遺伝子
記載なし [※]	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	86	菌株 (血液由来)	バンコマイシン耐性腸球菌 (van C2遺伝子)	同定試験 遺伝子

※：16週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
19週	0	1	0	0
今シーズン累計**	1	1	9	730

*：新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

**：2009-2010シーズンの開始は第36週(8月31日～9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週
ウイルス	アデノウイルス		4	1	10	3		4	12
	ライノウイルス	2			4	5		6	5
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	2		1		2		3	7
	単純ヘルペスウイルス	3	1		2				
	水痘・帯状疱疹ウイルス	2							
	ヘルペスウイルス6/7	3	4	2	2	4		3	5
	EBウイルス	3	3	1	4	2		1	1
	サイトメガロウイルス			1					1
	ムンプスウイルス		1	6	5	1		3	2
	麻疹ウイルス	1							
	風疹ウイルス	1							
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス	2	4	1		2			
	ノロウイルス			1	1			1	
	ロタウイルス	2							
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								1
インフルエンザウイルスB	2								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm					1	3			
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス		1		3	6		7	2	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌			1					2
	その他の細菌			1			3		1
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年12週～2010年19週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	20	18	55	21	13	6	1	5		6		29	21				118	
ウイルス	アデノウイルス	1	6	10	3			3				2	1				6	
	ライノウイルス		3	10	1							4					3	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		1	2						5		4						3
	単純ヘルペスウイルス																	6
	水痘・帯状疱疹ウイルス																	2
	ヘルペスウイルス6/7	1								2		10						10
	EBウイルス					1						1	3					10
	サイトメガロウイルス			1								1						
	ムンプスウイルス					1								17				
	麻疹ウイルス											1						
	風しんウイルス																1	
	パルボウイルスB19																	
	RSウイルス		1	8														
	ノロウイルス				2													1
	ロタウイルス				1													1
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	1																	
インフルエンザウイルスB	2																	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	4																	
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス		1	16	1													1	
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		1					1									1	
その他の細菌		3	1				1											
その他の病原体																		

子宮頸がん予防ワクチン

子宮頸がんは婦人科領域のがんの中で乳がんに次いで発症率が高く、20～30歳代の女性でも高いがんである。子宮頸がんは発がん性のHPV（ヒトパピローマウイルス）の持続感染が原因と考えられている。HPVには約100種類あり、うち15種類が発がん性HPVとして分類され、なかでもHPV16型および18型は子宮頸がんの組織から最も高い頻度で検出され、発がん性ウイルスの60～70%を占めている。子宮頸部へのHPV感染（子宮頸部基底細胞への侵入）はほとんどが性交渉によるもので、性交経験のある女性の80%は一生に一度は発がん性HPVに感染するという報告があるように、誰でも感染するリスクを持つ。しかし発がん性ウイルスに感染してもほとんどが一過性感染で、感染が長期間続くと、ごく一部のケースでその後、前がん病変を経て子宮頸がんが発症する。昨年予防ワクチンとして承認された2価ワクチン（サーバリックス：グラクソ・スミスクライン社）は12月より使用が開始された。他にもう一つのワクチンである4価ワクチンも現在承認待ちである。前者はHPV16型および18型に対する感染予防ワクチンで、後者はHPV16型、18型および6型、11型に対する予防のワクチンである。

2価HPVワクチンはHPV16型と18型のLI蛋白を抗原としたワクチンで、高い抗体価が長期間（20年くらい）維持されることが期待される。接種法は、10歳以上を対象に半年間に3回（0、1、6カ月後、上腕に筋注）接種する。ただこのワクチンはすべての発がん性HPVの感染を防ぐことができるわけではなく、既存のHPV感染や子宮頸部病変に対し治療効果を持たないことを接種者に説明する必要がある。要は、子宮頸がんを防ぐにはHPVワクチンの接種だけではなく、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切（成人女性ではぜひ必要）である。

（文責 （財）性の健康医学財団 理事長 松田静治）